

「広瀬の回国塔(かいこくとう)」

九田川にかかる橋のうちでも、広瀬橋は重要な役割をもっていました。かつては瀬戸内と山口を結ぶ秋穂往還が、川を渡るための橋だったからです。ここは川船の発着基地であり、周辺部落の農産物を出荷したり、小郡方面から積んで帰った塩・石炭・肥料などを陸揚げしたりするための場所でもありました。この川船営業は、明治30年頃まで続き、広瀬橋周辺には茶店・酒店・豆腐煮魚屋などがあったということです。

さて、この回国塔は、九田川にかかるその広瀬橋のたもとにあります。「回国」とは、日本の諸国(66か国)の霊場を訪ねて、大乘妙典と言われる法華経を納めて回る風習です。このようにして日本回国の大業を果たした記念に建てられたのが、回国塔という供養塔です。

広瀬の回国塔は、回国途中に現地の人々の協力を得てつくられたもので、この塔には「右あいをみち(秋穂道)、古橋願主當村浄念 奉納大乘妙典 日本廻国石橋願主、豫州松山桑村郡安用村 善左衛門 文化七年(1810)午ノ二月吉日」と書かれています。四国松山の行者である善左衛門さんが、広瀬の人々の窮状を知り、古くなっていた木橋を石橋に作り替える大業を成し遂げた功績を後の世に残すための塔なのでしょう。

(参考:平川史談会による回国塔の説明、「平川文化散歩」より)

